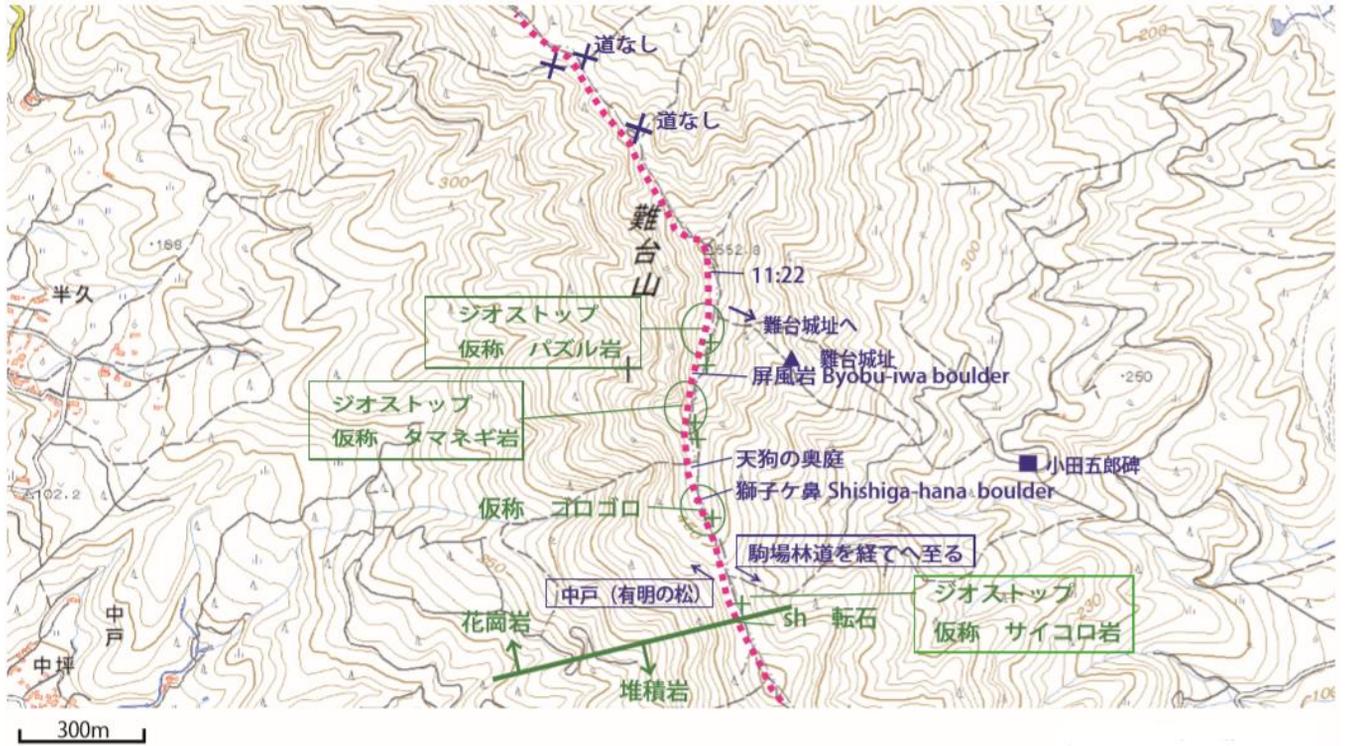




# 筑波山地域Cトレッキング 第1ステージ

観察資料

## 【難台山 ルートマップ】



## 【ジオストップ】

### ■ 奇岩・奇石群

■ サイコロ岩

■ タマネギ岩

■ パズル岩

■ 難台城址 南北朝時代の山城址。



# 筑波山地域Cトレッキング 第1ステージ

## 観察資料



### <資料> 県指定文化財 史跡 難台山城址

指定年月日 昭和9年（1934）5月18日

所在地 笠間市上郷3647番地

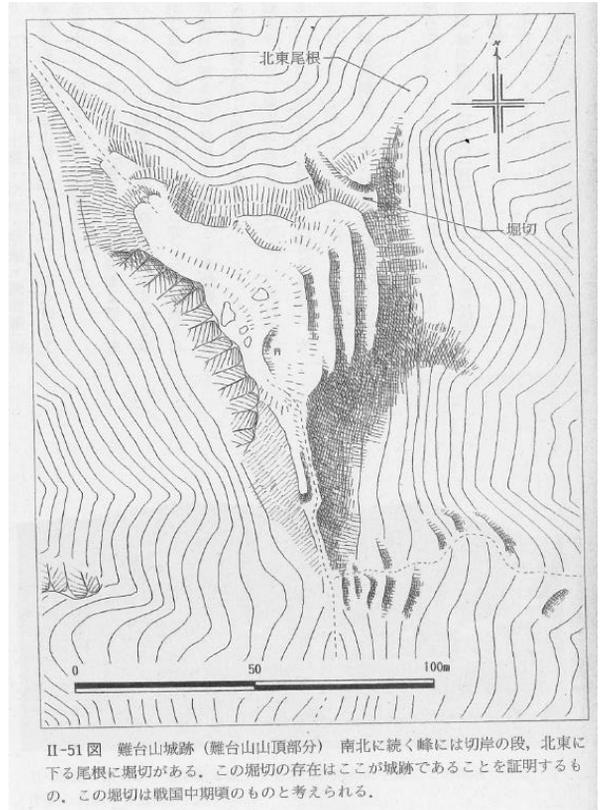
土地所有者 新居章三

#### 由来

難台山城は、南北朝争乱における常陸南北朝の決定的壊滅をもたらした合戦の故城である。

元中4年（1387）南朝方の小山義政の第3子若犬丸が、小田孝朝の子、五郎藤綱とともに、難台山（現在地）に拠り兵を挙げた。小山、小田勢は、真壁の城主真壁顕幹から兵糧等の支援を受けて戦い、一方北朝方の上杉朝宗は太田

（常陸太田市）の城主佐竹義宣、山尾（日立市友部）の城主小野崎通郷、江戸郷（那珂市）の城主江戸通高らの応援を受けここに難台山より北東にあたる館岸山に拠ってたびたび攻めたが、容易に落ちなかったので元中5年（1388）上杉勢は小田方の糧道を遮断した。このため同年5月小田五郎は手兵とともに討って出戦死したと伝えられる。なお小山若犬丸は囲みを破って逃れ、後に応永4年（1397）奥州で旗揚げしたが、破れて自害した。



II-51 図 難台山城跡（難台山山頂部分）南北に続く峰には切岸の段、北東に下る尾根に堀切がある。この堀切の存在はここが城跡であることを証明するもの。この堀切は戦国中期頃のものと考えられる。

茨城県教育委員会

岩間町史編さん委員会 2002 岩間町史



# 筑波山地域Cトレッキング 第1ステージ

## 観察ガイド



		難台山城と小田家
1	知家ともいえ	常陸国守護職 源頼朝から絶大な信頼
7	治久はるひさ	1336年足利尊氏が北朝の天皇を立て、南北朝時代が始まる
		常陸の南北朝抗争、1336年楠木正家（南朝方）瓜連城落城後、常陸南部で合戦
		北畠親房 <small>きたばたけちかふさ</small> 奥州南北朝立て直し、伊勢国より船出、嵐で漂着 治久1338年北畠親房、小田城に迎える
		1339年小田城で神皇正統記を執筆。神代から後村上天皇までの歴史を記し、南朝が正当である由を述べ、著者の国体論・皇統論・神統論・政治論・武家論を各所に述べる。
		1341年高師冬 <small>こうのもろふゆ</small> の攻撃、小田城開城
		親房 関城・大宝城に移動 1343年落城
8	孝朝たかとも	
	藤綱	1387年 南朝方小山義政の第3子若犬丸が、孝朝の子
		五郎藤綱とともに、難台山に拠り兵を挙げた。
9	治朝はるとも	1392年 南北朝が合一される
14	政治まさはる	小田氏最大勢力 1516年家臣菅谷勝貞、土浦を攻め取る
15	氏治うじはる	1534 - 1601年 衰退の時代 幾度も小田城を失う
		土浦城を立て直しの拠点
		巡回企画展「小田氏治と戦国時代の城館」つくば市より作成